平成２１年度　「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

モデル事業名	地域力発揮による二地域居住推進モデル構築事業
対象地域	山梨県　南都留郡　富士河口湖町　居村地区
対象地域の概要	 【位置図】　【土地所有者の不在化が進む状況※】　【精進湖居村地域の状況】 ※出典：精進湖活性化協議会（黄色・赤が空き家）
提案内容の概要	本事業の目的は、平成 20 年度に引続き空き家件数が集落件数の半数以上を占める精進湖居村地域においてテーマ、及び利用形態を絞り込んだ新しい二地域居住を模索することにある。本年度事業においては、昨年度策定したテーマ、利用形態に応じたプログラムの開発、利活用に適した体制整備、さらに試験的な宿泊実験を行う。
提案する活動の内容 （１）地域の課題	精進湖居村地域は、人口が増加している富士河口湖町でも人口減少が続いており、現在は人口 300 人未満（10 年で 15%程度減少）となっている。また中でも空き家は地域の住居が密集する地域に 20 件以上が集中して存在しており、活性化を通じた人口増加が急務になっている。一方で、地区の意識は高く空き家の持ち主のほとんどが利活用に賛成であるため、平成 19 年度に空き家利活用を主目的とした協議会を設置、さらに平成 20 年度には協議会で空き家利活用のための利用形態、テーマについて 9 回の検討会を開催した。 その結果、以下二点の利用形態、テーマが決定した。利用形態については空き家を単に二地域居住用に提供するのではなく、空き家 1 件当たり 50 人の田舎暮らしを志向する会員を募集しいつでも安価に利用できる空き家宿泊施設として整えることで地域ファン、地域サポーターとして育成していく方針が決定した。またテーマについては、同地域が最も輝いたとされる大正末期から昭和初期の時代をクローズアップし、「THE SHOUJI」というテーマ設定で雰囲気を作っていく事が確認された。 しかしながら、具体的な空き家宿泊施設の利用方法や、利用者に対する「THE SHOUJI」らしいプログラム展開については討議が必要となる。今後の課題としては、具体的な受け入れ体制の整備や、受け入れ時に展開するプログラムの開発、さらには現場での試験的な受け入れが必要となる。
（２）活動内容の案	活動①：会員受け入れ体制の整備（2009 年 9 月まで）
	第一の活動は会員受け入れ体制の整備である。本事業は最終的には空き家 5 件程度を精進湖の田舎暮らしに感銘する会員向けの宿泊体験施設とすることにあり、そのための会員の受け入れ体制の整備が必要になる。具体的には、受け入れに向けてのＨＰやブログといった情報基盤の整備、宿泊者が来訪した場合の地域内でのオペレーションについて協議（受け入れ時の鍵の受渡し、事前説明を行う方法やローテーション、空き家内においておくプログラムや食の紹介方法、問題発生時への対処方法）、宿泊後の対応方法やフォローアップを検討する。
	活動②：テーマに即したプログラムの開発（2009 年 9 月まで）
	第二の活動は、昨年度決定された「THE SHOUJI」に即したプログラムの開発である。同活動の目的は、宿泊に来る会員を単なる旅行者から地域ファン、サポーターにステップアップしてもらうために、普通では知ることができない精進湖居村地区の魅力を伝えることにある。具体的には、地域の人しか知らない自然や歴史のスポットを巡るウォーキングルートの開発とフットパス化を最低 5 つ行う。また食においては、昨年度開発された素材メニューを活かした泊り客向けメニューを開発し、提供を行えるレベルに引き上げる。
	活動③：宿泊体験の実施（2009 年 8 月～11 月）

	第三の活動は、20 組 40 名以上の宿泊体験の実施である。同活動の目的は、上記 2 活動によって設定された利用形態、テーマ設定が最終消費者からどのように判断されるかを明確にするために行う。同活動の結果は、活動１、２に反映させる。 具体的には、平成 21 年度 4 月～7 月に向けて協議会を中心に整備される 2 件の空き家を活用し、体制整備、プログラム開発が終了する 9 月～11 月にかけて実験を行う。告知は町との連携による広報、また移住交流推進機構などを活用し、通常の観光目的とは異なる二地域居住希望者にターゲットを絞って行う。
応募団体名	精進湖活性化協議会
リンク	kikaku@town.fujikawaguchiko.lg.jp
部局／担当者名	企画課　渡辺勝保
連絡先	０５５５－７２－１１２９
推薦市町村名	富士河口湖町